

学長定例記者会見要項

日 時： 令和7年5月8日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 高校生が大学の授業を受けて、単位も先取りできる～数学や理科を深く追求したい全国の高校生に一歩先の学びを～
2. 「山形五堰」シンボルマークが完成！～学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の依頼でデザイン～

お知らせ

1. 第24回学長特別講演会を開催します～5月23日（金）伝国の杜 置賜文化ホールで開催～
2. 米国科学アカデミー(NAS)・コッツアレリ賞受賞記念動画と国際学術講演会「テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会」
3. 農場産作物使用 大学オリジナル新商品完成～4月4日(金)より販売開始～
4. 山形大学発ベンチャー「アルファテック」食品分野で本格稼働～5月22日（木）13:30～ 事業説明会開催～
5. 日本学術振興会から感謝状を頂きました～科学研究費助成事業等に関する貢献～
6. 第2期「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム開講式」～5月9日の開講式で佐藤頭取（山形銀行）の記念講演～

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和7年6月5日（木）11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（5月8日）発表

1. 高校生が大学の授業を受けて、単位も先取りできる～数学や理科を深く追求したい全国の高校生に一歩先の学びを～

山形大学学術研究院 教授（理学部担当）・理学部統括教育ディレクター

とみまつ ひろし
富松 裕

2. 「山形五堰」シンボルマークが完成！～学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の依頼でデザイン～

学生サークル「まちの記憶を残し隊」人文社会科学部人文社会科学科4年

すずき じゅん た
鈴木 淳太

学生サークル「まちの記憶を残し隊」人文社会科学部人文社会科学科3年

ひらつか とう ま
平塚 冬真

令和7年(2025年)5月8日

高校生が大学の授業を受けて、単位も先取りできる ～数学や理科を深く追求したい全国の高校生に一步先の学びを～

【本件のポイント】

- 山形大学理学部では、令和7年度から高校生が受講できる授業科目「サイエンスセミナー」を新たに開講します。
- 高校生は大学生と一緒に、同じ教室で受講できるほか、遠隔地からオンラインでも受講できます。
- 取得した単位は、将来理学部に入学した際、卒業に必要な単位として認定されます。



【概要】

山形大学理学部では、令和7年度から高校生が大学の授業を受講できる「サイエンスセミナー」を開講します。この取り組みは、「理学部って、どんなところ?」「大学の授業って、どんな感じ?」という疑問を解消し、数学や理科を深く探求したい意欲的な高校生に新たな学びを提供するものです。遠隔地からでもオンラインでの受講が可能で、この授業で単位を取得した高校生が将来山形大学理学部に入学すると、その単位が認定されます。

履修希望者は、所属する高等学校を通じて、本学の高大接続科目等履修生として申し込む必要があります。この制度は、高校生に多様な学習機会を提供し、進路の選択にも役立ててもらうことを目的として設けられました。「サイエンスセミナー」はこの制度を活用して開講する第1号の授業科目であり、全国の高校生に対して入学後に単位認定を行う取り組みとしては、東北地方で初めてとなります。なお、山形県立東桜学館高等学校では、この授業で得た学修成果が学校外での活動として認定され、大学と高等学校の双方から単位認定を受けることができます¹⁾。

【背景】

高校生による大学での単位取得は、高等学校教育と大学教育の接続を円滑にし、学びの多様化を推進する取り組みとして全国に広がりつつあります²⁾。山形大学理学部では令和4～5年度に高大連携の一環として、山形県立東桜学館高等学校の希望する生徒に「サイエンスセミナー」をオンライン授業形式で提供しました。この取り組みを通じて得られた経験をもとに授業の内容や構成について見直しを行い、令和7年度から全国の高校生が受講でき、単位も先取りできる授業科目として開講することとしました。

【サイエンスセミナーについて】

理学部では、数学や理科の「なぜ?」を深く追求する研究が行われています。科学(サイエンス)は世界の仕組みを解明し、新たな視点をもたらす冒険です。私たちの身の回りにあるスマホや自然界の綺麗な模様、小さな石ころにさえ、その裏には科学があります。「サイエンスセミナー」では、数理科学(数学・データサイエンス)や自然科学(物理学・化学・生物学・地球科学)の様々なテーマについて、高校生程度の知識(数学I・II、理科基礎)を活かしながら、多角的な視点で物事を捉え、理解を深めていきます。

- **受講資格**：当該授業科目を履修するのに十分な学力を有し、在籍する高等学校長が推薦する者(標準として高校2年生以上を目安とします)

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

- ・ **受講方法**： 所属する高等学校を通じて、高大接続科目等履修生として申込み必要があります（今年度の締切は8月6日）。授業は理学部の教室で受講するか、インターネットに接続されたパソコンまたはタブレット端末からオンラインで受講することができます。
- ・ **開講される期間と時間**： 10月～12月の毎週金曜日 16:30～17:50
- ・ **成績評価**： 計12回の講義のうち8回以上を受講し、翌週までに課題を提出することが必要です。課題の評価点の平均値が成績点となり、60点以上で合格となります。
- ・ **受講料**： 5,500円

詳細は理学部ホームページ <https://www.sci.yamagata-u.ac.jp/> に掲載しています。

※注

1. 高校教育の多様化や充実を目的として、高校の生徒が学校外で行った学修を、高校の科目履修とみなして単位を認定することができます（学校教育法施行規則第150条）。
2. 先行事例として、例えば鹿児島大学や信州大学の先取り履修制度があります（信州大学は長野県内の高校生限定）。

授業科目に関する問い合わせ先

山形大学学術研究院 教授（理学部担当） 富松 裕
E-mail: htomimatsu@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

高大接続科目等履修生の手続きに関する問い合わせ先

山形大学理学部事務室教務担当
TEL: 023-628-4508
E-mail: yu-kjkyom-ri@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

高校生が大学の授業を受けて 単位も先取りできる

山形大学理学部「サイエンスセミナー」

≡ 数学や理科を探究したい全国の高校生に一步先の学びを ≡

10月～12月の毎週金曜日
16:30～17:50 に開講します

大学の教室でも、オンライン
でも受講できます

将来理学部に入学すると
単位として認定されます

理学部1年生向けの科目を高校生にも開講します。受講の目安は、高校2年生以上です。

申込方法

所属する高等学校を通じて「高大接続科目等履修生」としてお申込みください。締切日は8月上旬です。

成績評価

全12回の講義のうち8回以上を受講し、翌週までに課題を提出することが必要です。課題の評価点の平均値が成績点となり、60点以上で合格となります。

受講料

5,500円

毎回異なる教員が担当し、数理科学（数学・データサイエンス）や自然科学（物理学・化学・生物学・地球科学）のテーマを取り上げます。

【令和7年度の授業テーマ】

- 🌿 植物の視点から見る生物多様性
- 🌍 綺麗な岩石や鉱物に記録された地球の歴史を読みとる
- ➗ 整数、有理数から代数的数へ
- ⚡ 暮らしを進化させる半導体技術と次世代の半導体材料
- 📖 ことばとコンピュータ
- 🔍 原子の配列を見て物質の性質を解き明かす
- 🧬 生命のしくみを分子のかたちから知る
- 📚 有限集合の代数：基本から情報通信への応用まで
- 🌀 自己組織化の科学：自然界にあふれる美しい模様の謎
- 🌋 火山との付き合い方：火山は怖い？それとも...？
- 🔹 対称性とトポロジー：数理解物理的視点で捉えよう、自然界の美しさ
- 🎮 全てを想定する：ゲームの数学

科学をもっと
深く探究したい

進路選びや
総合型選抜の
参考に

意欲的な高校生の参加を
お待ちしております！

詳しい申込方法はコチラ



令和7年（2025年）5月8日

「山形五堰」シンボルマークが完成！

～学生サークル「まちの記憶を残し隊」が山形市の依頼でデザイン～

【本件のポイント】

- 学生サークル「まちの記憶を残し隊」は、「山形五堰環境保全モデル事業」の第一号として、「山形五堰」のうち大学の周りを通る「笹堰」の清掃・維持管理を行っています。
- 山形五堰が、令和5年（2023年）11月4日に世界かんがい施設に登録されたことや、令和6年（2024年）に400周年という節目を迎えたことをきっかけに、山形市農村整備課の依頼を受け、山形大学の学生サークル「まちの記憶を残し隊」が、「山形五堰」シンボルマークを作成しました。
- 「山形五堰」シンボルマークには、歴史のある山形五堰が、農業と共に山形市に残り続け、さらに発展していくことへの願いが込められています。



山形五堰

「まちの記憶を残し隊」がデザインした
シンボルマークと文字

【概要】

令和5年（2023年）3月1日に山形大学の学生有志が、未来に残すべきかけがえのない地域の「記憶」を残すべく、サークル（翌年3月に公認サークル化）として「山形大学まちの記憶を残し隊」を結成し、中心市街地の街並みの撮影やまちの人びとへのインタビューを日々行っています。また、山形市農村整備課と連携し、「山形五堰」の一つで山形大学小白川キャンパスの周囲を通る笹堰の清掃活動を行っています。同年11月には、「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録されたことを受けて、「山形五堰」を紹介する横断幕のデザインを担当しました。このような経緯から、このたび、「まちの記憶を残し隊」が山形市農村整備課の依頼で「山形五堰」シンボルマークのデザインを担当しました。

「山形五堰」シンボルマークのデザインは、「まちの記憶を残し隊」に所属する、人文社会科学部4年の鈴木淳太が作成しました。このシンボルマークは、自然の恵みとしての山形五堰の水の流れと、農業への貢献がイメージされたものです。令和6年（2024年）に創設から400年という歴史的な節目を迎えた山形五堰は、生活用水や農業用水、親水機能などの様々な役割を持ち、地域にとってかけがえのないものとなっています。そのような山形五堰が、農業と共に山形市に残り続け、さらに発展していくことへの願いが込められているデザインです。

現在、自然災害の増加や農地の減少、高齢化を背景として、「山形五堰」の維持管理が課題となっています。「山形五堰」を山形市の重要な歴史として未来に残していくためには、「山形五堰環境保全モデル事業」をはじめとした山形市と地元町内会との連携も欠かせません。「山形五堰」シンボルマークなどを用いて積極的にPRしていくことにより、「山形五堰」を維持管理する協力の輪を広げることが期待されています。

※用語解説

1. 山形五堰（やまがたごせき）：山形市内を通る笹堰（ささぜき）・御殿堰（ごてんぜき）・八ヶ郷堰（はつかごうぜき）・宮町堰（みやまちぜき）・双月堰（そうつきぜき）の五つの堰（農業用水路）の総称で、江戸時代の寛永元年（1624年）に、山形藩主・鳥居忠政（とりいただまさ）が整備したとされています。
2. 世界かんがい施設遺産：かんがい農業の発展に貢献したものや卓越した技術により建設されたものなど、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するために「国際かんがい排水委員会（ICID）」により創設された制度です。



お問い合わせ

学生サークル「まちの記憶を残し隊」

メール：machinokiokuwonokoshitai@gmail.com

令和7年(2025年)5月8日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 第24回学長特別講演会を開催します～5月23日（金）伝国の杜 置賜文化ホールで開催～

学長特別講演会を5月23日に米沢市の伝国の杜、置賜総合文化ホールにて開催します。講師は、玉城絵美氏（H2L株式会社 代表取締役/ 琉球大学工学部 教授/ 東京大学大学院工学系研究科 教授）をお迎えし、「BodySharing, 体験共有の未来」と題して講演いただきます。

2. 米国科学アカデミー(NAS)・コッツアレリ賞受賞記念動画と国際学術講演会「テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会」

4月27日（日）に本学人文社会科学部の坂井正人教授が米国科学アカデミーからコッツアレリ賞を授与されました。受賞を記念し、米国科学アカデミーは受賞論文に関する動画を作成しました。また、5月18日（日）に本学人文社会科学部で開催する一般向けの講演会を開催します。

3. 農場産作物使用 大学オリジナル新商品完成～4月4日(金)より販売開始～

農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で生産している農作物を原料にした、大学オリジナル菓子が2種完成し、4月4日（金）より販売を開始しています。

4. 山形大学発ベンチャー「アルファテック」食品分野で本格稼働 ～5月22日（木）13:30～ 事業説明会開催～

山形大学発ベンチャーの株式会社アルファテックでは、水を使わず、一瞬ででんぷんやセルロースを非晶化する独自技術「Amorfast®（アモルファスト）」を食品分野で本格稼働します。事業説明会を以下の通り開催しますので、報道機関におかれましては取材・撮影をお願いいたします。

5. 日本学術振興会から感謝状を頂きました～科学研究費助成事業等に関する貢献～

郡司修一教授（理学部主担当/物理学）は、日本学術振興会学術システム研究センターの研究員を2022年4月～2025年3月の3年間務めました。この度、科学研究費助成事業等に関する貢献が認められ、同会より感謝状を授与されました。

6. 第2期「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム開講式」～5月9日の開講式で佐藤頭取（山形銀行）の記念講演～

「やまがた社会共創プラットフォーム」では、山形県内の企業等を対象とした「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」を令和6年度から実施しています。令和7年度は24社32名から申込があり、5月9日（金）に開講式及びオリエンテーションを実施します。

令和7年（2025年）5月8日

第24回学長特別講演会を開催します ～5月23日（金）伝国の杜 置賜文化ホールで開催～

【本件のポイント】

- 学長特別講演会を2025年5月23日（金）に米沢市の伝国の杜・置賜文化ホールで開催します。
- 講師には玉城絵美氏（H2L株式会社 代表取締役/ 琉球大学工学部 教授/ 東京大学大学院工学系研究科 教授）をお迎えし、「BodySharing,体験共有の未来」と題して講演いただきます。
- 講演内容は、玉城氏が開発した「BodySharing」について紹介します。また、この技術は、スポーツ、医療、遠隔観光、遠隔教育などの体験共有に応用されており、今回は、応用事例の他、研究成果のビジネス導入時の障壁と突破口についても紹介します。



【概要】

山形大学では、学長特別講演会を令和7（2025）年5月23日（金）に米沢市の伝国の杜・置賜文化ホールにて開催（対面・オンラインのハイブリット形式）します。講師には玉城絵美氏（H2L株式会社 代表取締役/ 琉球大学工学部 教授/ 東京大学大学院工学系研究科 教授）をお迎えし、「BodySharing,体験共有の未来」と題し、講演いただきます。参加料は無料、申込方法は専用フォームから受付けます。（5/20 申込締切）

【日時・場所】

日時：令和7年5月23日（金）16:00～17:30

場所：伝国の杜 置賜文化ホール（〒992-0052 山形県米沢市丸の内1丁目2-1 2番1号）

【講師略歴】

- 氏名：玉城絵美

- 所属：H2L, Inc. CEO（2021年03月～）／琉球大学工学部 教授（2021年04月～）／東京大学大学院工学系研究科 教授（2023年04月～）

人間とコンピュータの間で身体感覚を伝達する BodySharing 技術の研究と事業開発に従事。2011年、東京大学大学院で博士号取得、総長賞受賞。2012年に H2L, inc.を創業。2020年より 5G と連携した遠隔での体験共有システムを多数提案。

【申込方法】

専用フォームにより5月20日（火）まで受付けます。

<https://forms.office.com/r/Yrn8snMD44>



お問い合わせ

総務部総務課秘書広報室

TEL 023-628-4008

メール yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

講演
主旨

つなぐちから。山形大学

共有・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現

山形大学では、3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を発信するため、国内外の多方面で活躍されている方を講師に迎え、学長主催による特別講演会を開催しています。

今回は、2021年に琉球大学で女性初の工学部教授に就任され、また、H2L株式会社を創業し、経営者として、また、テレビのコメンテーターとしても多方面で活躍されている玉城 絵美氏を講師として迎え、学長特別講演会を開催いたします。玉城氏が発明し、世界中から注目されている重さや抵抗感など多様な感覚を他者やロボットと共有する技術であるBodySharingに関して、「BodySharing、体験共有の未来」と題しご講演いただきます。



山形大学 学長
玉手 英利
TAMATE Hidetoshi

BodySharing, 体験共有の未来

講師

H2L 株式会社 代表取締役 / 琉球大学工学部 教授 /
東京大学大学院工学系研究科 教授

玉城 絵美 氏

TAMAKI Emi

人間とコンピュータの間の情報交換を促進することによって、豊かな身体経験を共有するBodySharingとHCI*研究とその普及を目指す研究者兼起業家。2011年に手の動作を制御する装置 PossessedHandを発表し、Time 誌が選ぶ50の発明に選出される、2012年にH2L,Inc.を創業し、UnlimitedHand、FirstVRなどの製品を発表し、サービスへと展開。2020年国際会議 AugmentedHumanにて、近年で最も推奨される研究論文として表彰。

*HCI: Human-Computer Interaction

講演
内容

BodySharingとは、「身体に付随する感覚を相互に共有し、体験を複数人で共有する技術」です。これには人、ロボット、バーチャルの身体も含まれます。BodySharingではセンシングとアクチュエーションによって位置覚、抵抗覚や重量覚などの固有感覚を伝達します、私たちは光学式筋変位センサを開発し、機械学習で「力の入れ具合」を推定することに成功しました。この技術は、スポーツ、医療、遠隔観光、遠隔教育などの体験共有に応用されています。今回は、応用事例の他、研究成果のビジネス導入時の障壁と突破口についても紹介します。

日時

2025.5.23 金 16:00~17:30

場所

伝国の杜
置賜文化ホール

開催
形式

対面及びオンライン
※録画配信はございません。

参加費無料

申込方法

QRコードから
お申し込みください。

申込者には、本講演会参加に必要な情報を
開催日前日までにメールでお知らせします。



山形大学
Yamagata University

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

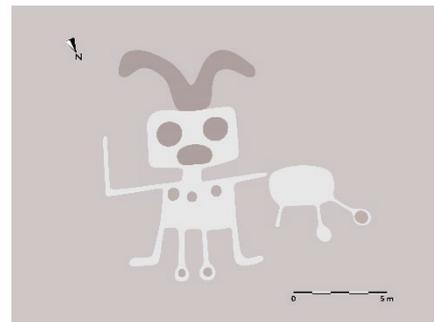
山形大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

令和7年（2025年）5月8日

米国科学アカデミー(NAS)・コッツァレリ賞受賞記念動画と 国際学術講演会「テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会」

【本件のポイント】

- ナスカの地上絵に関する山形大学と IBM の共同研究が米国科学アカデミーのコッツァレリ賞を受賞したことを受け、同アカデミーは受賞論文を紹介する動画を制作し、アカデミーのウェブサイトとYouTube で公開しました。
- 受賞内容について、2025年5月18日（日）に山形大学人文社会科学部で開催する一般向けの講演会「テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会」において発表します。
- この講演会では、米国の著名なナスカ研究者であるケビン・ヴォーン教授（カリフォルニア大学リバーサイド校・山形大学客員教授）がナスカ考古学を一変させた最新技術の応用について発表します。



【概要】

ナスカの地上絵に関する山形大学と IBM の共同論文は、2025年4月27日（日）に米国科学アカデミー（National Academy of Sciences）からコッツァレリ賞を授与されました。この受賞を記念して、米国科学アカデミーは受賞論文に関する動画を制作・公開しました。受賞内容については、2025年5月18日（日）に山形大学人文社会科学部で開催する一般向けの講演会「テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会」において発表します。また最先端の技術を用いて古代ナスカ社会の実像に迫るケビン・ヴォーン教授をお迎えし、ナスカ研究の最前線をご紹介します。先端技術と考古学の融合が、古代文明にどのような新たな光を当てるのか——その可能性を一緒に探ります。

【米国科学アカデミー・コッツァレリ賞受賞記念動画】

山形大学の坂井正人教授、櫻井秋久客員教授、Hendrik F. Hamann客員教授（IBM）、Marcus Freitag客員教授（IBM）等は2025年4月27日（日）に米国科学アカデミー年次総会でコッツァレリ賞（Cozzarelli Prize）を受賞しました。この受賞を記念して、米国科学アカデミーは受賞論文である"AI-accelerated Nazca survey nearly doubles the number of known figurative geoglyphs and sheds light on their purpose"（AIによってナスカ調査が加速したことで、既知の具象的な地上絵の数がほぼ倍増し、地上絵の目的が明らかになった。）に関する動画を制作して、米国科学アカデミーのウェブサイトとYouTubeで公開しました。

米国科学アカデミー：動画と論文要旨 < <https://www.pnas.org/post/update/2024-cozzarelli-prize-recipients> >

YouTube：動画のみ < https://www.youtube.com/watch?v=kZB-XJx_38 >

コッツァレリ賞とは、米国科学アカデミー紀要（PNAS）に掲載された3,200本以上の研究論文の中から優れた6本を選び表彰するものです。これら6本の論文は、米国科学アカデミーの6つの部門（物理・数学科学、生物科学、工学・応用科学、生物医学科学、行動科学・社会科学、応用生物・農業・環境科学）に対応しています。行動・社会科学部門において、日本の大学に所属する研究者としては初めての受賞です。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【国際学術講演会・テクノロジーが解き明かす古代ナスカ社会】

この講演会では、コッツアレリ賞を受賞した論文の内容を坂井正人が一般向けに解説するとともに、現在山形大学ナスカ研究所が取り組んでいる地上絵の研究と保護について紹介します。一方、米国の著名なナスカ研究者であるケビン・ヴォーン教授は、ミトコンドリアDNA解析、最新の年代測定法、同位体分析、さらには人工知能などの最先端テクノロジーによって明らかとなった、古代ナスカ文化に関する最新の知見について講演されます。

開催日時：2025年5月18日（日）14:00～16:30（13時30分開場）

開催場所：山形大学人文社会科学部1号館3階301教室

一般公開（参加無料／申し込み不要／定員：200名 [先着順]）

主催者：山形大学ナスカ研究所、国立民族学博物館

共催者：山形大学人文社会科学部、科学研究費補助金基盤研究（A）「ナスカの地上絵を用いた「読み書き」行為の実態解明：人工知能と実証的アプローチの融合」（研究代表者：山形大学教授・坂井正人）

プログラム

・14:00-14:10 挨拶

森岡卓司（山形大学ナスカ研究所長、山形大学人文社会科学部長）

・講演 14:10-15:00

坂井正人（山形大学学術研究院）

「人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究」

・休憩 15:00-15:10

・講演 15:10-16:10

ケビン・ヴォーン（Kevin J. Vaughn）（米国カリフォルニア大学リバーサイド校）

「ナスカ考古学を探る：ペルー南海岸の古代ナスカに迫る最新技術の応用」

Dig in to Nasca Archaeology: Recent Technological Applications Advancing our Knowledge of Ancient Nasca, South Coast of Peru. **[英語：逐語通訳あり]**

・質疑応答：16:10-16:30

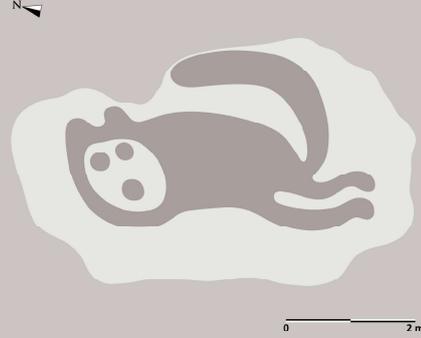
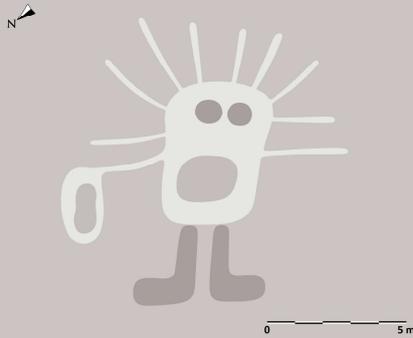
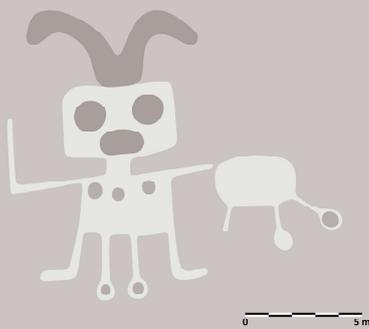
※松本雄一（国立民族学博物館）：司会進行、通訳、質疑応答のファシリテーター

お問い合わせ

山形大学ナスカ研究推進センター

山形市小白川町一丁目4-12、電話番号 023-628-4470

nasca@human.kj.yamagata-u.ac.jp



国際学術講演会

テクノロジーが解き明かす

Nasca Archaeology and Technology

古代ナスカ社会

聴講無料
事前申込不要
定員：200名
(先着順)

5/18 2025 日 14:00 ▶ 16:30

会場：山形大学
人文社会科学部 1号館 **301** 教室
開場は13:30です

古代ナスカ社会には、地上絵をはじめとする多くの謎が秘められています。本講演会では、人工知能を活用して新たな地上絵の発見と分析を行う山形大学の研究成果を紹介するとともに、最先端の技術を用いて古代ナスカ社会の実像に迫るケビン・ヴォーン教授（カリフォルニア大学リバーサイド校）をお迎えし、ナスカ研究の最前線をご紹介します。先端技術と考古学の融合が、古代文明にどのような新たな光を当てるのか——その可能性を一緒に探ります。

主催
山形大学ナスカ研究所
国立民族学博物館

共催
山形大学人文社会科学部

科学研究費補助金基盤研究(A)「ナスカの地上絵を用いた「読み書き」行為の実態解明：人工知能と実証的アプローチの融合」
研究代表者：坂井正人（山形大学学術研究院教授）

プログラム

14:00 開会

14:10 - 15:00

講演「人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究」

坂井正人（山形大学学術研究院教授）

15:00 - 15:10 休憩

15:10 - 16:10

講演「ナスカ考古学を探る：ペルー南海岸の古代ナスカに迫る最新技術の応用」

Dig in to Nasca Archaeology:

Recent Technological Applications Advancing our Knowledge of Ancient Nasca, South Coast of Peru.

ケビン・ヴォーン（Kevin J. Vaughn）**英語（逐語通訳あり）**

（米国カリフォルニア大学リバーサイド校教授・山形大学客員教授）

16:10 - 16:30

質疑応答

司会進行・通訳 松本雄一（国立民族学博物館准教授）

16:30 閉会

令和7年(2025年)5月8日

農場産作物使用 大学オリジナル新商品完成

～4月4日(金)より販売開始～

【本件のポイント】

- 農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門(高坂農場)で生産している農作物を原料にした、大学オリジナル菓子が2種完成した。
- 「山形大学サブレ」は株式会社十一屋が、「オリジナル飴」は、有限会社大山製菓が製造し、企画・販売は山形大学生生活協同組合(以下、山形大学生協)で担当した。
- 他オリジナル商品と同様に、売上の一部を学生への支援に活用する。



【概要】

山形大学生協では「がくちょうせんべい」「山形大学まんじゅう」など、大学オリジナル商品の企画・販売を行っており、このたび、お土産の需要期にあわせて新しい商品をリリースしました。

一つ目の「山形大学サブレ」は、生協が実施した新入生向け就活スタート講座の中で、「農場の米を使用したお菓子を販売したら売れるのでは？」という学生の声を受け、商品製造に取り掛かりました。

もう一つの「オリジナル飴」は、学生や父母等、大学教職員から「利用・購入しやすいオリジナル菓子があたら嬉しい」という要望があり、お土産や日常でも活用場面が多い商品と想定して、製造を行いました。今回のフレーバーには、高坂農場で栽培している農作物の中から、飴にした際に味や風味がより引き立つ、「りんご」と「ブルーベリー」を選びました。今後、他の農作物も活用し、新たなフレーバーの展開も検討しています。

【山形大学サブレの概要】

製造個数：1,000箱

価格：8枚入り(ホワイトチョコ4枚・スイートチョコ4枚) 1箱1,620円(税込)

原料：高坂農場産はえぬき配合

製造元：株式会社 十一屋(山形県山形市七日町1-4-32)

【オリジナル飴(りんご・ブルーベリー)の概要】

製造個数：各300袋

価格：14個入り 432円(税込み)

原料：りんごの飴・・・高坂農場産リンゴジュース、リンゴジャム(紅玉)使用

ブルーベリーの飴・・・高坂農場産ブルーベリージャム使用

製造元：有限会社 大山製菓(山形県山形市北山形2丁目4-22)

- ・ 小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗での直接購入が可能です。
- ・ 生協ホームページ(<https://www.yamagata.u-coop.or.jp/>)を通じて組合員向けに販売を行います。

【売り上げの一部を学生支援に活用】

売上の10%を「山形大学基金」等に寄附し、学生支援を中心に活用いただきます。

寄付贈呈式は、毎年7月下旬頃に実施しています。

参考：昨年 <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/information/20240801/>

お問い合わせ

企画・販売：小白川コンビニ店 Ciel(シエル) 遠藤

TEL：023-641-8662 Mail：Endo.Risa@univ.coop

PRESS RELEASE

令和7年（2025年）5月8日

山形大学発ベンチャー「アルファテック」食品分野で本格稼働 ～5月22日（木）13:30～ 事業説明会開催～

【本件のポイント】

- 山形大学の西岡昭博教授が開発した革新的技術「Amorfast®（アモルフアスト）」を米粉需要の高まる**食品分野で本格稼働**。
- 水を使わず一瞬ででんぷん/セルロースを非晶化する独自プロセスのため、省エネかつ低環境負荷。
- 食品分野での事業計画発表。
- 米粉製品開発事例を紹介。
- アルファテックは有力なスタートアップ企業を選定する「J-Startup TOHOKU」に選定。

【アルファテック事業説明会の概要】

株式会社アルファテック（本社：山形県、代表取締役：駒井雄一）は、水を使わず、一瞬ででんぷんやセルロースを非晶化する**独自技術「Amorfast®**

（アモルフアスト）」を食品分野で本格稼働します。 Amorfast®に関連した研究は、山形大学アグリフードシステム先端研究センター（略称：YAAS）（<https://yaas.jp/>）の重点研究プロジェクトの一つに位置づけられています。

この度は、米粉市場をはじめとする食品業界への技術応用など、食品分野での事業展開、米粉をはじめとする市場ニーズ、技術優位性、アルファ化加工事例や製品事例について、報道関係の皆さまに取材・撮影いただける機会をご用意しました。ご多忙のところ恐れ入りますが、是非ご来場賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事業説明会ご参加・ご取材希望の方は、準備の都合上、2025年5月16日（金）までに、下記担当安孫子までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

記

日時：2025年5月22日（木）13:30～15:30（受付13:15～）

場所：山形県米沢市アルカディア1丁目808番48
有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）
アクセス・地図 <https://inoel.yz.yamagata-u.ac.jp/contact/>

内容：アルファテックの独自技術「Amorfast®（アモルフアスト）」の紹介
食品分野での事業概要・計画を発表
米粉製品開発事例を紹介
質疑応答

Amorfast®に関するお問い合わせ
学術研究院 教授 西岡昭博（有機材料システム研究科）
TEL: 0238-26-3207 e-mail: nishioka@yz.yamagata-u.ac.jp

事業説明会に関するお問い合わせ・申込先
株式会社アルファテック 担当：安孫子眞鈴
TEL: 080-7134-1436 e-mail: marin-abiko@alpha-technology.jp



令和7年（2025年）5月8日

日本学術振興会から感謝状を頂きました ～科学研究費助成事業等に関する貢献～

【本件のポイント】

日本学術振興会の学術システム研究センターは、学術研究における基礎研究や人材育成のあり方などについての多様な視点からの意見を活かし、科研費等の審査システム評価業務に参画しています。本センターの研究員を3年間務めた理学部の郡司修一教授に学術振興会から感謝状が贈られました。

【概要】

郡司修一教授（理学部主担当／物理学は、日本学術振興会学術システム研究センターの研究員を2022年4月～2025年3月の3年間務めました。この度、科学研究費助成事業等に関する貢献が認められ、同会より感謝状を授与されました。



【郡司教授のコメント】

自分は学術システム研究センターの数物班というグループでお仕事をさせて頂きました。同じグループには第一線で活躍する高名な先生も多数いらっしゃり、そのような先生の研究の話を聞く機会が沢山あって学術的に多くの刺激を受けることができました。一方で科学研究費などの機密性の高い緊張する仕事がほぼ毎月あり、緊張する3年間でした。いずれにしても何とか任期を全うすることができて、今は胸をなで下ろしています。

【郡司教授 概略】

1992年 山形大学理学部（助手）着任 2009年より現職
専門研究分野は宇宙物理学、NASAやJAXAとも共同研究を行っている([2023年1月のプレスリリース](#)もご覧ください)。

【参照】

- ・学術システム研究センターのホームページ
<https://www.jsps.go.jp/j-center/>

お問い合わせ

学術研究院 教授 郡司修一（理学部）／理学部主担当

TEL 023-628-4555 メール gunji@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

令和7年（2025年）5月8日

第2期「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム開講式」 ～5月9日の開講式で佐藤頭取（山形銀行）の記念講演～

【本件のポイント】

- 山形大学が事務局を務める「やまがた社会共創プラットフォーム」（「やまぶら」※）では、山形県内の企業等を対象とした「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」を令和6年度に初めて実施。県内企業17社19名が受講した（右はR6.10.25開催の修了式）。
- 令和7年度は昨年度を上回る企業24社32名から申し込みがあり、5月9日（金）の開講式・オリエンテーションから全14回・67時間のプログラムがスタート。
- 開講式には受講者の所属企業の経営者も参加し、(株)山形銀行の佐藤英司頭取が記念講演。



【概要】

本学が事務局を務める「やまぶら」では、**文部科学省補正予算「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に2年連続で採択**され、県内リカレント教育の実態・ニーズ調査、評価指標・環境促進指針の作成、経営者マインドセットの醸成等の事業を行い、昨年度は、その一環として組織や事業の成長を牽引していくコア人材の育成を希望する山形県内の企業・団体を対象に「**やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム**」を開講し、**県内企業17社19名が受講**しました。

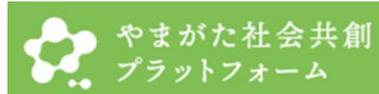
第2期となる令和7年度は、昨年度プログラムの課題や受講者からのフィードバックを踏まえ、**財務シミュレーションや実地企業研修を追加**するなど内容をブラッシュアップした上で募集したところ、昨年度を上回る県内企業24社32名から申し込みがありました。5月9日（金）に学内で開催する開講式・オリエンテーションには受講者の派遣企業の経営者からも参加いただき、玉手英利会長（山形大学長）の開講あいさつ、菅生達仁山形大学准教授のプログラム説明のほか、**(株)山形銀行の佐藤英司頭取の記念講演「変革の時代に求められる企業中核（コア）人材の役割と行動」**を行います。

産学官金医の連携で全国屈指の総合型地域連携型プラットフォームである「やまぶら」は、本プログラムを継続的に実施して、**県内産業界で活躍していくコア人材を“オールやまがた”で育成**してまいります。

<開講式の詳細は別添「チラシ」をご参照ください>

※やまがた社会共創プラットフォーム（やまぶら）

令和4年10月に発足した全国屈指の総合型地域連携プラットフォーム。高等教育機関連携部門、地域課題解決・価値創出部門、リカレント教育推進部門の3部門体制で、“オールやまがた”で地域課題を共有し、解決に取り組んでいる (<https://www.yamagata-u.ac.jp/yamapura/>)。



（お問い合わせ）

国立大学法人山形大学 総務部総務課 社会共創推進事務局 樋口、石澤

（やまがた社会共創プラットフォーム事務局）

TEL 023-628-4615 メール yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

やまがた共創塾 地域産業コア人材 育成プログラム

Core Human Resources Development Program for Regional Industry

令和7年度開講式・オリエンテーション

■日時：令和7年5月9日（金）14:00-17:00

■会場：山形大学基盤教育3号館1階 アトリエ

（山形市小白川町一丁目4-12）

■スケジュール

14:00 開講あいさつ 玉手英利 山形大学学長

やまがた社会共創プラットフォーム会長



14:05 プログラム説明 菅生達仁 山形大学准教授

14:20 記念講演 佐藤英司 株式会社山形銀行 取締役頭取



演題 「変革の時代に求められる企業中核（コア）人材の役割と行動」

15:00 ～休憩～

15:10 受講生自己紹介 ファシリテーター 菅生達仁

（受講者は事前にオンラインアセスメントを受けてください）

16:50 事務連絡

17:00 終了

※今回は受講者の所属企業の経営者または担当役員等の方も参加いただきます。

